

## 式 辞

陽ざしがすっかり明るくなり、新しい春の訪れが感じられる、今日の良き日に、同窓会会長 松坂 宏造 様をはじめ、多くのご来賓のご臨席と、保護者の皆さまのご列席を賜り、ここに仙台市立仙台商業高等学校第十一回、卒業式を盛大に挙行できますことは、私ども教職員の大きな喜びでございます。ご臨席を賜りました皆さまに心よりお礼申し上げます。317名の卒業生の皆さん、卒業おめでとう。また、卒業生保護者の皆様、誠にありがとうございます。感慨もひとしおかと、御推察申し上げます。皆様には、本校の教育活動に多大な御理解、御協力を賜りましたこと、教職員を代表して、あらためて厚く御礼申し上げます。さて、卒業生の皆さん、高等学校を卒業するということは皆さんが重ねた努力の結晶であることは言うまでもありませんが、これまで皆さんの成長を願い、見守ってこられた御家庭の方々や地域社会の方々、励ましていただいた先生方など、多くの皆様の支えがあつての卒業であるということを忘れないでください。本日の、皆さんの輝かしい門出に当たり、私が日頃考えていることの一部をお話して、はなむけの言葉としたいと思います。一つ目は「素直な心を持ち続けること」です。素直な人とは、ささいなことにも感謝できる人のことをいいます。素直に「ありがとう」と言えば言うほど、笑顔の数が増えていきます。感謝の言葉を伝えれば伝えるほど、心もきれいになっていきます。卒業に当たり、皆さんの成長を支えて下さった方々に是非、自分の言葉で感謝の気持ちを伝えてください。私は、折に触れ、皆さんに「商業を学ぶ心」とは「感謝する心」であると話してきましたね。忘れないでください。そして、自分の「夢」を実現させることで自分を支えてくださった多くの人達の気持ちに感謝し、報いるよう努力してください。二つ目は「困難に立ち向かう力をつけること」です。皆さんの中には上級の学校へ進む人、実務に就いて社会人としての生活を始める人もいます。進む道が異なっても、これから生きていこうとする社会には、様々な試練が待ち構えています。人生という行く手はるかな道は決して平坦ではありません。途中で立ち止まることや、歩きたくなくなることがあるかもしれません。そんな時は、仙商で過ごした三年間を思い出してみてください。人生に必要なことは、「困難に立ち向かう力」です。本当の人間の価値は、すべてがうまくいって満足しているときではなく、試練に立ち向かい、困難と闘っているときにわかるものです。仙商を巣立って新しい道を歩み始める皆さん。皆さんにはこれから幾多の困難が待ち受けていることでしょう。そのとき、本校在校時に、多くのことにチャレンジし、粘り強く取り組んだ3年間を思い出し、その厳しい環境を乗り越えた経験をもとに、きっとそれらの困難を乗り越えていくことが出来るものと確信しています。皆さんなら必ず出来るはずです。なぜなら、皆さんは仙商の卒業生だから。そして、私たち教職員は、皆さんにそのような力が身に付いたと信じています。本校で培った、「困難に立ち向かう力」を発揮して、人生の荒波を、勇気を持って歩いていくことを願っています。さあ、皆さんは、三年間の高校生活を終えて、今日、この場から、それぞれの人生に向かって、旅立っていくわけですが、三年という時の流れを振り返った時、皆さんの心の中はきっと充実した毎日を送ることができた、というすがすがしい満足感で一杯だろうと思います。思い出は、

辛かったこと、楽しかったことなど様々であると思いますが、再び巡って来ることのない貴重な経験として、その思い出をいつまでも大切にしてください。本校で培ったものが十年後、二十年後になっても、皆さんの心の中で、生き生きとした生命を持ち続け、その人生を支えていくものであってほしいと、私は願っています。そして、さらに、皆さんに忘れてほしくないことがあります。それは、この三年間、皆さんをここまで導いてきた担任の先生、学年の先生をはじめとする本校の教職員のことを、心に刻んでおいてほしいと思います。時にはきびしい存在であったかと思いますが、教職員のだれもが皆さんの将来を、豊かで明るいものにしたいと願っているのです。

結びになりますが、それぞれの人生に向かって、たゆまぬ前進を続け、皆さんの前途が洋々たるものであることを信じ、将来のご多幸をお祈りして、私からの、はなむけの言葉といたします。

令和二年三月一日 仙台市立仙台商業高等学校 校長 長谷川律男